

住民の皆さんができること、行政に望むことについて意見交換しました。

	住民ができること	× (かける)	行政にしてほしいこと
災害への備え 	・子供への防災教育を行う ・勉強会等を行い、未来を拓く江ノ口地区の人々の育成を行う ・防災全般の勉強会を行う ・感震ブレーカーを付ける		・各地域別小単位で市役所による研修・勉強会の開催をする ・楽しいテーマと防災をコラボにしたイベントを行うことで若い世代にも参加してもらう ・各団体(自主防災組織、学校等)の防災活動に対して協力する ・防災拠点を事前に作り防災倉庫を整備しておく ・空き家問題を解決するべきである ・津波の水を早く抜くため、ポンプを増設させる ・災害ごみを置く場所が必要である
被災時の助け合い 	・災害時の避難所運営等は子供たちも戦力となる ・連携して地域の住民の情報を把握しておく		・一定のエリア間隔ごとに、民間と協力して、キッチンカーや給水車が停まれるスペースを構えておく。
復興まちづくり 	・地域住民の災害及び復興等の取組への意思統一 ・町内会単位で空き家等の状況を調べて行政に提供してはどうか ・元気に過ごすことが復興につながる		・速やかに復興するには予防が一番大事である ・将来、避難住宅として使う想定でそのエリアに合った集合住宅を建設する ・瓦礫をのけて早期に道路を復旧することが大事 ・災害前に狭い道を広げる ・避難機能を持たした構造物を作り、平時はコミュニティ作りの場所にする
その他	・行政はパートナーであるため、あくまでも自分達の街は自分で守る		・昔から比べ「個人情報」の制限があり、隣近所で顔の見える関係が薄くなっている

自助・共助・公助

●お知らせ

ホームページ上に掲載した「意見投稿プラットフォーム」でも意見を募集していますので、気軽にご回答ください。



●お問い合わせ先

高知市 防災政策課 事前復興まちづくり担当
TEL : 088-823-9055 FAX : 088-823-9085
Mail : kc-080200@city.kochi.lg.jp

高知市 事前復興 まちづくり ニュース VOL.2 R 8. 8. 25

7月16日（木）、土佐建機江ノ口コミュニティセンターで、中央地区事前復興まちづくり計画第2回ワークショップ（江ノ口地区）を開催しました。意見交換1では「中央地区の復興ビジョン」、意見交換2では前回の復興パターンから地域の方の意見を反映した「修正復興パターン」、ワーク4では「速やかに復興するために必要なこと」について、みんなで話し合いました。



中央地区

事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップ (江ノ口地区) を 開催しました！

地域の方
14名参加

意見交換1は2ページ、意見交換2は3ページ、ワーク4は4ページに表示しています。

※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。

●ワークショップの進め方・内容

- 第1回 令和8年4月8日開催 
- ワーク1 中央地区の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること
- ワーク2 復興パターン2案について
- ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像する



第2回 令和8年7月16日開催



- 意見交換1 復興ビジョンについて
- 意見交換2 修正復興パターンについて
- ワーク4 速やかに復興するために必要なこと



第3回 令和8年11月頃開催予定

- 意見交換3 最終案について
- ワーク5 災害が起きる前からできること



各地区での第1回のご意見から復興ビジョンを3案作成し、意見交換しました。

○ワークショップをもとに考えたビジョン案

案1（第1回ワークショップで提示済み）「コミュニティ・多世代」を主軸とする案

『世代を超えてつながる 安心とにぎわいが持続するまち』

高知市中心部、都市機能誘導区域を含むエリアにおいて、職場と住まいが近接した、歩いて暮らしやすい都市構造を生かしながら、子どもから高齢者まで、多様な人たちが共に暮らせる復興を目指す。通勤や通学、買い物、医療・福祉、文化・交流の機能を身近に備えた高知市中心部に、人々のにぎわいと笑顔が自然と集まり、誰もが自分らしく、楽しく、災害に強く、安心して日常を送ることができるまちへと再生していく。

案2（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「防災・利便性」を主軸とする案

『いつもの便利がもしもの安心へ 利便と防災が融合する災害にも強いまち』

中央地区は、路面電車や充実した周辺施設など、日々の暮らしやすさが大きな魅力となっています。普段の便利な生活を守りながら、それが災害時の安心にもつながるよう備える「災害に“も”強い」をキーワードに、普段の延長線上にある防災」を目指すものです。マンションで暮らす人も、戸建てで暮らす人も。互いの顔が見える距離感の中で、いつまでも自分らしく健やかに暮らせるまちを目指します。

案3（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「資源・にぎわい」を主軸とする案

『歴史文化と安心を守り抜く 笑顔あふれるにぎわいのまち』

これまで大切にしてきた「よさこい祭り」や地名に宿る記憶は、地域コミュニティの絆そのものです。この大切な歴史文化を「日々の安心」という土台の上に守り抜き、次の世代へと継承していきます。商店街や市場でお買い物を楽しみ、その活気を育むことは、誰もが暮らしやすい「安全なまち」を創ることに繋がります。安心して歩ける川沿いの散歩道や、誰もがワイワイと交流できる場所をみんなで守り、笑顔がたえないまちを目指します。

○各班で議論したものを、発表していただきました！

グループ1 案はまとまらなかった

- ・「命を守る」というワードは入れたい
- ・中央地区は利便性が良いため、人が多く買い物しやすい
- ・コミュニティがあってこそ防災や多世代・資源につながるため、コミュニティが一番大事である
- ・高知市の「コミュニティ計画」でもコミュニティが中心になっている
- ・平時でもそうだが、復興の際にも高知駅を中心として復興していくのではないかと

グループ2 案1に関する意見が多かった

- ・多世代というワードが大事である
- ・「通勤や通学、買い物、医療・福祉、文化・交流の機能」が大事である
- ・平時の都市計画を踏まえた復興となっているのか
- ・中学生意見が大事である

グループ3 1つの案に決めれない

- ・「防災」「風水害」に強いまちを目指したい
- ・「コミュニティ」を大事にしたい
- ・現状道が狭いので拡幅することにより「利便性」が向上できたらいい

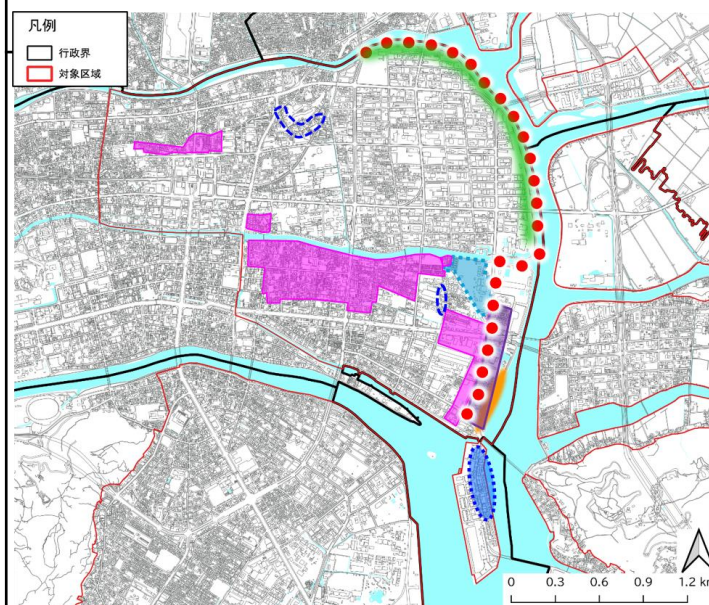


各地区の意見をまとめ、第3回ワークショップで最終的に中央地区のビジョンをお示します。

修正復興パターン2案について意見を共有しました。

【第1案】二線堤形成案

●広範囲な市街地の津波安全性の向上、二線堤を形成し広範囲に市街地を守る案



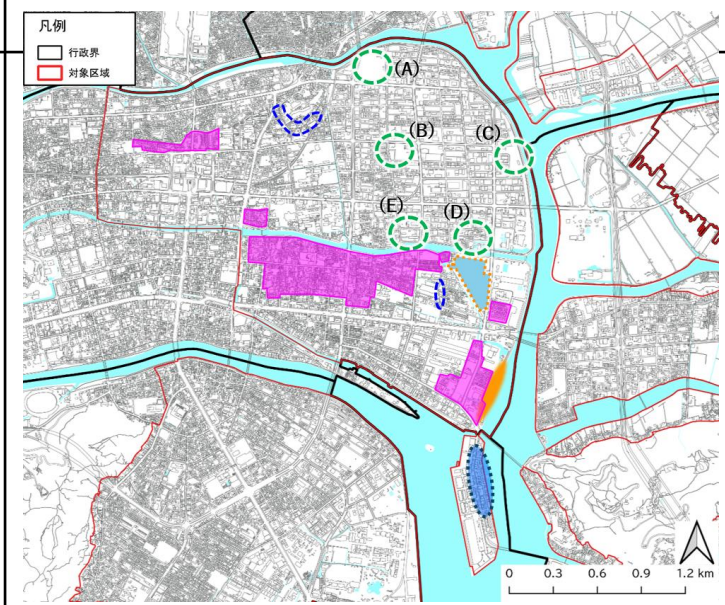
- 土地地区画整理事業
道路基盤整備検討（一部範囲追加）
- にぎわい形成
二線堤を活用した、かわまちづくりの検討
- 内陸移転
- 二線堤
- 丸池公園周辺用地の有効活用
空き家を活用した差込み移転
- 道路拡幅整備の検討
- 移転元地の有効活用
工業系移転候補地として活用
- にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討

【第1案】

- ・二線堤を整備すると防いだ水がどこかに影響するのではないか
- ・河川沿いの堤防や二線堤を整備し、それより内側は個人再建でもいいのではないかと
- ・土地地区画整理について、ピンポイントでの整備がまちづくりとして本当にふさわしいのか
- ・1案にあわせてかさ上げする方法も1つの手段である

【第2案】現地再建案

●面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興を形成する案



- (A) 防災拠点（弥右衛門公園）
- (B) 防災拠点（北御座公園：立体都市公園）
- (C) 防災拠点（南久保公園：立体都市公園）
- (D) 防災拠点（札場東公園：立体都市公園）
- (E) 防災拠点（札場西公園：立体都市公園）
- 土地地区画整理事業（嵩上げ）
道路基盤整備検討（一部範囲追加）
- 土地地区画整理事業（嵩上げ）
公営住宅等の整備検討
丸池公園周辺用地の有効活用
- 道路拡幅整備の検討
- にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討

【第2案】

- ・津波より液状化の被害がひどくなると思うので現地再建案がいいのではないかと

【共通】

- ・中水道、昭和町の土地地区画整理をしてほしい
- ・土地地区画整理では一時期立ち退きをしないといけないため、大変そうである
- ・愛宕商店街から東西の枝道が狭い

【その他の意見】

- ・行政が主体となり空き家問題を解決してほしい
- ・火事の対策が必要である
- ・空き家をリフォームして人を増やしていけたらいい
- ・津波より液状化が心配である
- ・被災後何割の人が地域に戻ってくるのかを踏まえて計画を作るべきである

